

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立茨田南小学校

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・令和6年度の全国学力・学習状況調査(4月実施)では、平均正答率で国語科においては全国平均を4.1ポイント下回り、算数科においては全国平均を4.4ポイント下回る結果となった。12月実施の大阪市学力経年調査では、5,6年においては、前年度を下回ったが、4年においては、大阪市平均を上回ることができた。総合点においては前年度を上回った。年間通じての取り組み方法に課題がまだある。年度目標に加わった理科学習・外国語(英語)学習への興味、関心の向上に関しては、目標値を達成することができた。今年度も、理科専科授業や英語の短時間学習、C-NETを活用しての効果的な学習形態を継続して取り入れ、すべての教科において基礎・基本の学力の向上を図ると共に、研究テーマである「『対話的で深い学び』を実現する授業研究」に取り組んでいくことが必要である。
- ・タブレット端末などICT機器を活用した学習を継続して取り入れることにより児童はいろいろな場面で積極的にICT機器を活用して学習をすることができるようになり、低学年の児童のタイピング技術の向上もみられた。今年度も継続して取り入れていきたい。
- ・授業規律を守る順法意識は向上してきている。個々の児童の自尊感情の向上については、継続した取り組みで徐々にではあるが向上してきている。学校安心ルールを定着させるとともに、思いやりの心や、ありがたの気持ちを継続して育てていきたい。
- ・不登校児童については、増減を繰り返している状態で、改善にはいたっていない。
- ・令和6年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果、男女とも体力合計点で全国平均を3.3~5.4ポイント下回った。全校での体力向上の取り組みを進めていかなければならない。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させ、全校で8名以下にする。
- ・防災教育を実施するとともに、令和7年度末の校内調査において、「学校や家庭・地域などで地震や津波・火災が起こったとき、どう行動したらよいかを知っていますか。」の項目に肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を55%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における正答率5割以下の児童を、いずれの学年も令和3年度より4ポイント減少させる。
- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における5年生の体力合計点を、男女とも令和3年度より5ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く] **【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】**
- ・デジタル教材を活用した朝学習等を週2回以上実施する。
- ・令和7年度末までに、すべての教室（特別教室を含む）に大画面テレビ（大型ビジョン）を配備する。
- ・令和7年度までに、年次有給休暇を年間10日以上取得する教職員の割合を100%にする。
- ・令和7年度末までに、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を50%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
【基本的な方向1、安全・安心な教育の推進】
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】
- ・ 防災教育を実施するとともに、令和6年度末の校内調査において、「学校や家庭・地域などで地震や津波・火災が起こったとき、どう行動したらよいかを知っていますか。」の項目に肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。
【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。
【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】
- ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】
- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】
- ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】
- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度以上にする。
【基本的な方向5、健やかな体の育成】
- ・ 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における5年生の体力合計点を、男女とも令和6年度より2ポイント向上させる。
【基本的な方向5、健やかな体の育成】

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]
【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】
- ・年次有給休暇を年間10日以上取得する教職員の割合を95%以上にする。
【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を80%以上にする。
【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】
- ・各学年全員公開の研究授業をICT機器を利用しながら行う。(計7回)
【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】
- ・全教員1回以上、公開授業を行う。
【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】
- ・デジタル教材を活用した朝学習等を週2回以上実施する。
【基本的な方向6、教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

3 本年度の自己評価結果の総括

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

教育活動における種々な行事や取り組みを、精選をはかりながら実施することができた。いじめ防止に関する取り組みを継続して行い、年間3回(各学期に1回)「いじめ(いのち)について考える日」を設定し、その認知・解消と自尊感情の向上に取り組んだ。

・学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに対する最も肯定的な回答は、R5:73.9%→R6:76.3%→R7:83.8%で目標の80%に届き、児童の意識が向上している。

・年度末校内調査「地震や津波の時、どう行動したらよいか知っていますか」の問いに対する肯定的な回答は97%で、指標の90%を大きく上回った。年間3回の避難訓練(火災、地震、防犯)の取り組みの成果が確実に表れている。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

・学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の問いに対する最も肯定的な回答は

R4:27.3%→R5:34.7%→R6:35.3%→R7:35.2%で本年度の指標35%を上回った。

・学力経年調査「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答：77.25% 目標達成

・学力経年調査「理科の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答：73.2% 目標達成

・学力経年調査における国語および算数の平均正答率の標準化得点を経年的に比較すると、

国語 3年 96.6、4年 101.1→100.9、5年 101.4→100.7、6年 98.4→98.0

算数 3年 96.9、4年 100.6→99.1、5年 100.2→100.7、6年 99.3→97.6 で、

各学年の前年度の学年時の標準化得点と比べ、5年の算数のみが0.5ポイント上回り、あとは、下回る結果となった。4年生：国語0.2P減、算数1.5P減 5年生：国語0.7P減、算数0.5P増 6年生：国語0.4P減、算数1.7P減 となり目標を達成できなかった。

・学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」の問いに対する最も肯定的な回答は R5：65.8%→R6：71.4%→R7：67.9%であり目標を下回った。校内調査においては R5：67%→R6：68%→R7：68%となり、昨年度と同等であった。

・学力経年調査における正答率が市平均の70%に満たない児童の割合をR6→R7で同一母集団で比較すると

R6：3年→17.8%、4年→16.1%、5年→17.6%、6年→23.1%

R7：3年→31.6%、4年→16.5%、5年→7.7%、6年→20%

4年は1.3ポイント、5年は8.4ポイント減少し、目標を達成できた。6年は2.4ポイント増加となった。

・5年生の体力合計点は男子はR5：47.91→R6：49.23→R7：47.63 女子はR5：47.67→R6：48.48 →R7：50.30 全年度より、男子は1.6ポイント下回り、女子は1.82ポイント向上した。目標の2ポイント向上には届かなかった。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

各学年ともPCを使った学習が定着しており、朝学習やモジュールタイムでのPC利用を行っている。

・「授業日において児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする」の目標は達成できた。「心の天気」の活用が定着してきている。

・年次有給休暇を年間10日以上取得する教員(管理職を除く)の割合は2月時点で100%であり、目標達成できた。

・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合は2月時点で100%であり、目標達成。

・各学年全員公開の研究授業をICT機器を利用しながら年間7回以上行った。

・デジタル教材を活用した朝学習等を行ったが、学年によってバラツキも見られた。また教材の精選も必要と思われる。今後の課題である。ロイロノートとミライシードは有効であった。

大阪市立茨田南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 【基本的な方向1、安全・安心な教育の推進】 →83% (目標達成) ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (6年度4%) 【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 →5パーセント(25/507) (達成できず) ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 (6年度44%) 【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 →改善はされていない。 ・防災教育を実施するとともに、令和7年度末の校内調査において、「学校や家庭・地域などで地震や津波・火災が起こったとき、どう行動したらよいかを知っていますか。」の項目に肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。 【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 →96% (目標達成) 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童によい生活習慣を身に付けさせる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「チャイムの合図をきいて行動することができますか」で肯定的な回答の児童の割合を95%以上にする。 →96% ・不登校児童(年間30日以上欠席)の人数を昨年度より減少させる。 	C
<p>取組内容②【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもどうしの「よいところみつけ」に取り組む。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつの大切さ」についての話し合いの機会を取り入れ、自尊感情を育てる。 ・アンケート項目「自分にはよいところがあると思いますか。」で肯定的な回答の児童の割合を80%以上にする。 →89% ・アンケート項目「あなたは困っている友達を助けることができますか。」で肯定的な回答の児童の割合を90%以上にする。 →94% 	A
<p>取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動を充実させたり他学年との交流を図ったりして、違いを認め合い、学年を超えた仲間づくりや思いやりの心を育てる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「全校遠足」、「ハッピーフェスティバル」、「6年生ありがとう会」を実施する。 その他、積極的に他学年との交流を図る。 	B

<p>取り組み内容④【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の授業を実施し、防災に対する意識付けに取り組む。 	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を年間3回、各学級で防災に関する学習を年1回以上実施する。 ・校内アンケート「学校や家庭・地域などで地震や津波・火災が起こった時、どう行動したら良いかを知っていますか。」で肯定的な回答の児童の割合を90%以上にする。 →96% 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【取組内容①】</p>	
<p>☆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャイムを意識するように声掛けしてきた。 ・チャイムの合図で遊びをやめることができている。 ・不登校児童には、保護者と連絡を取り合い、学校生活や課題に取り組ませてきた。 <p>★課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャイムの合図で遊びをやめているが、教室に戻るのにダラダラしている児童が多くいる。実態とアンケートがあっていない。 ・靴箱から教室まで、ダッシュして戻っている児童もいて危険。 ・不登校児童は改善されていない。 (不登校率の計算方法 不登校の人数÷学年の人数×100) ・不登校児童を減らすためにどのような取り組みをしていくのか学校全体で話し合いが必要。担任まかせになっている。 	
<p>【取組内容②】</p>	
<p>☆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の学習の中で、よいところみつけに取り組み、自尊感情が高まってきている。 ・道徳、学活等でよいところカードをつくり、まとめてカード集にした。 ・代表委員会の取り組みで、あいさつする児童が増えた。 <p>★課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいところみつけをしても「自分にはよいところがない」という児童にはどのようなアプローチをすればいいのか。 ・なかなか自尊心が上がらない児童もいるため、家庭の協力も必要。 ・あいさつ運動期間のみあいさつしている児童が多い。日常の中であいさつが定着していない。 	
<p>【取組内容③】</p>	
<p>☆成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に実施された。 <p>★課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア学年を決めてもいいのではないか。 ・ペア学年での取り組みがもっと増えればいい。 ・わくわく班だけでなく、6年生が手本となって取り組む機会がもう少しあってもいい(特に1・6年) 	

【取組内容④】

☆成果

- ・十分に達成されている。
- ・計画的に取り組めていて、子どもたちも見通しをもって行動できている。

次年度への改善点

【取組内容①】

- ・次年度、きまりについてもう一度確認する。
- ・靴箱の位置の検討。教室までの導線の確認も必要。
- ・不登校児童の対応は、生活指導連絡会の情報共有だけでなく、不登校児童への組織的な対応をどうしていくか決めて、動いていく。(不登校対策委員会?)
- ・運営の計画の最重要目標にあがっているのにも関わらず、具体的な方策もなく、学校内での研修もない。学校全体で取り組まないと改善しないので、不登校に対するアプローチの仕方をパターン化して、教職員が全員が同じ対応ができるようにしていく。
- ・休み時間にトイレや水分補給をするように徹底する。

【取組内容②】

- ・あいさつの習慣をみにつけられるように、来年度も取り組んでいく。

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。 28.4% 【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 未達成 【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 74.1% 【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 未達成 65.4% 【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 令和7年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。 2ポイント減少は、ほとんどの学年、教科で減少できなかった 下記参照 【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度以上にする。 未達成 【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における5年生の体力合計点を、男女とも令和6年度より2ポイント向上させる。 【基本的な方向5、健やかな体の育成】 	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験的活動やICTを活用し、意欲を高める授業に取り組む。また1人1台端末の活用を進め、情報活用能力や自己表現力の素地を養う。 <p>指標</p>	

<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台学習者用端末を毎日学習に活用する。 ・アンケート項目「タブレットやデジタル教科書を使うと学習が楽しい」で肯定的な回答を90%以上にする。 92% 	
<p>取組内容②【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「『対話的で深い学び』に導く授業展開の追求」をテーマとして研究授業に取り組む。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年、全員公開の研究授業を行う。(計7回) ・全教員1回以上の公開授業を行う。 ・アンケート項目「あなたは友だちと話し合う学習は好きですか」で肯定的な回答を85%以上となるように取り組む。 89% 	A
<p>取組内容③【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態をよりの確に把握し、単元教材に応じた効果的な授業に取り組む。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「授業はよくわかりますか」で肯定的な回答を90%以上となるように取り組む。 92% ・校内アンケートにおける「宿題をしていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を95%以上にする。 95% ・校内アンケートにおける「家庭学習(宿題以外の学習。自主学習を含む)をしていますか」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を70%以上にする。 72% 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末について1年生では毎日学習に取り入れることは難しかった。また、各学年でどこまでの端末の操作の段階を目指すが確認できていなかった。 ・朝の会、モジュールタイム、学習のふりかえり時等にタブレット学習を行っている。自分のペースで進度を決められ、つまずきの際はくり返し行えることで定着してきている。 ・児童、教員ともに使い方に慣れ、様々な学習場面で活用できており、研究授業でもそれが活かされていた。 ・ひまわり学級では、総合的読解力や調べ学習、ローマ字の学習で活用できた。 ・毎日心の天気を入力しているので、その流れでデジタルドリルなどタブレットを使用して学習を行うことができた。 ・ロイロノートやミライシード、デジタルドリル等を積極的に活用し、1人1台端末の活用を進めた。指標アンケートも肯定的な回答が92%であり、ICTを活用し、意欲を高める授業に取り組んだ。 ・毎日朝と給食後に心の天気を記録した。また、週に1回以上タブレット端末を活用して学習を行った。 ・朝の時間、モジュールタイムなど授業中に活用できないときもできる限りタブレット学習に取り組むように進めてきた。それいよりアンケートの肯定的な回答の割合は92%と目標を達成できた。 ・タブレットやデジタル教科書は児童の学習意欲を高めたり難しい内容を理解するのに効果的だと感じた。ただ、タブレットの操作が苦手な児童にとっては難しく、タブレットか紙かを選択できるようにすると提出物の管理が難しくなると感じた。 <p>取組②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマでの対話的で深い学びに研究授業で討議できた為、日頃の授業に話し合い活動を積極的にできた。 ・研究授業では「算数的対話」も注目し、授業内で活発な話し合いができるよう工夫する 	

ことができた。

- ・本年度の研究テーマに沿って学年で学習を進められた。ふりかえり、話し合い、対話をくり返し行ってきた。
- ・人権と研究とどちらも実践を深め発表を終えることができたことがよかったです。
- ・計画通り、各学年の研究授業・公開授業を実施できている。
- ・今年度の研究授業では児童が主体的に話し合う力がついてきていることが確認できた。
- ・計画的に、各学年、全員公開の研究授業や全教員1回の公開授業が行えている。指標アンケートも肯定的な回答が89%であり、ペアやグループで話し合う活動は、ほとんどの児童が積極的に行うことができている。
- ・ペアでの話し合う活動を増やすことで、自分の考えを友だちに伝えることができる児童がふえた。
- ・各学年、研究授業を計画的に実施することができた。話し合い活動においては主にペア活動を取り入れ、相手の意見に賛同したり疑問に思ったことは質問したりしながら進めてきた。それにより意欲的に話し合い活動に取り組む姿が見られアンケートの肯定的な回答の割合が89%と目標を達成できた。
- ・計画的に研究授業を行い、指導法や教材活用の視点を職員で共有することができた。また指導助言を日々の授業に活かすことができた。
- ・話し合う学習はどの教科でも積極的に取り組んでおり「近くに人と話をして」と声をかけるとすぐに対話が活発に行われている。

取組③

- ・自主学習については、1年生では3学期からの取り組みだったため定着は難しかった。
- ・宿題については目標を達成できているが、毎日している児童がいる反面、少数ではあるが全くしていない児童がいる。
- ・家庭学習については、目標を達成したが、自主学習については、内容が物足りなかったり学級で宿題として課されている場合も多く、家庭学習の質の面では課題が残る。
- ・特別支援学級では、学習環境が整わず、宿題や家庭学習をしない児童の割合が高い。家庭との連携の必要性を感じる。
- ・指標アンケートはそれぞれの項目で肯定的な回答が上回り達成している。
- ・自主学習は宿題に出したときはしてくるが自分から進んでやってくる児童が少なかった。
- ・課題のある児童には放課後や空き時間を活用し個に応じた指導を行ってきた。それによりアンケートの肯定的な回答の割合はどの項目においても目標を達成することができた。
- ・今回は家庭学習を70%以上の児童が取り組んでいる。シールや掲示等で意欲を高めることが効果的であった。

年度目標

令和7年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。

令和7年度 学年	6年生		5年生			4年生		3年生	
	令和6年度	令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度	令和7年度	令和6年度	令和7年度	
教科合計	16.7%	18.6%	13.2%	7.9%	12.3%	16.7%		27.8%	
国語	22.7%	18.3%	11.7%	6.6%	11.0%	11.4%		25.3%	
社会	19.7%	35.0%	14.1%	17.1%	20.7%	24.4%		32.0%	
算数	21.2%	20.3%	19.0%	21.1%	16.0%	17.7%		26.3%	
理科	16.7%	13.6%	19.5%	15.8%	23.5%	20.3%		30.7%	
英語	7.6%	10.0%		3.8%					

次年度への改善点

- ・Canva やロイロノートの研修をもっと深めて、つかえるようにしたい。
- ・子どもたちが「わかる」授業のために、宿題冊子や教材をもっと充実させてほしい。
- ・ロイロノートやGoogle 系のアプリ、スカイメニューなど各学年でどこまで扱えることを目指すか視聴覚部を中心に話し合うことでタブレット活用にもつながるとおもう。
- ・各学年の自主学習のノートや内容をホームページや掲示板を活用して見える化できると意欲が高まるのが期待できるのではないかと思う。
- ・次年度も一人一人が学習に参加できる、していると実感できるようなツール、活動を取り入れた研究をテーマに自主的発展的な研究に取り組んでいきたい。
- ・自主学習については毎度悩みもあるのでそこも盛り込んだ取り組みも必要かと思う。
- ・授業時間内にふりかえりを終えられるように授業展開を工夫していくこと。
- ・タブレット端末をより発展的に使うことに取り組む。
- ・相手に話すことだけでなく、聞き合っているかどうかに着目してはどうか。例えば相槌の打ち方などの話型やハンドサインなどを取り入れてはどうか。
- ・年度初めに学校だよりなどを使って家庭学習について協力を呼び掛けてはどうか。
- ・自主学習のノートを学級内だけでなく全校でみられるように掲示できる場を設ける。
- ・自主学習プリントを児童は自由に持ち帰ることができるコーナーを設けてはどうか。
- ・家庭学習に年度初めから取り組むことができなかつたので、次年度ははじめから取り組みたい。
- ・デジタル教育とアナログ教育のバランスが大切だと思う。
- ・宿題や家庭学習については、家庭との連携が必要だと思う。
- ・「自主学習に」自分から進んで取り組めるよう学校全体で工夫した取り組みを考える。
- ・タブレット端末に依存しない活用方法をするべきと考える。例えば、休み時間は時間など活用方法を制限するなど学校全体できまりを決めたほうがよいと思う。
- ・家庭学習の定着が低学年にはまだまだ難しいので高学年のノートをみる機会があればよいと思う。
- ・タブレットを活用することで家庭でも学習に取り組むことができたので引き続き活用していく。
- ・タブレットのマナーや使い方ももう一度学校、学級で共通理解も必要となってくると思う。

分科会より

分科会では主に端末の使い方について話し合いを行った。学年による端末の操作や使用ツールの目標を設定してはどうかという意見がでた。児童はもちろん教職員間でも端末スキルには個人差があるし、学年の発達に応じて使用ツールや使用目的も変わるので、しっかりとした目標というより、学年引継ぎの際にどの程度まで習得しているのかを引き継ぐことでよいのではないかという意見にまとまった。必要となれば視聴覚部と連携し、使い方ルールなど共通理解を図れるように準備していきたい。

また、自主学習の取り組み方や見せ方については、ホームページ、ロイロノート、掲示板で他学年の取り組みを見せて啓発をはかるようにしてはどうかという意見がでた。毎年1学期に「家庭学習のすすめ」という冊子を家庭に配布しているが、学校だよりでも保護者にむけて発信してはどうかという意見も出た。

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。 【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・令和7年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。 【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度以上にする。 【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における5年生の体力合計点を、男女とも令和6年度より2ポイント向上させる。 【基本的な方向5、健やかな体の育成】 <p>R6→男子 48.7 女子 48.5 R7→男子 47.4 女子 51.3</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容④【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの校内平均値を前年度より向上させる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1, 2学年では「握力」、3～6学年では「反復横跳び」「20mシャトルラン」の校内平均値が上がるよう取り組む。 	B

<p>取組内容⑤【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年を通して全校で体力向上の取り組み(駆け足、縄跳び、ストレッチ体操)を実施する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートにおける「運動することが好き」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を年度当初より向上させる。 ・体力向上の取り組みを年間10日以上実施する。 	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向5、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の体力向上を図ると共に、食育の推進に取り組む。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「朝ごはんを食べていますか」で肯定的な回答を95%以上となるように取り組む。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・運動委員会でボール投げの活動に取り組むことができた ・駆け足週間については実施できたが、ほかの内容については取り組みができなかった ・目標を達成することができた ・運動場の開放により、外に出られるようになって運動量は増えた ・体育の学習では、ストレッチ体操を毎回行っている ・広くなった運動場で遊ぶ様子が見られてよかった ・縄跳びとかけ足、ストレッチ体操は実施していない ・体操の後にストレッチに取り組むことで柔軟性が高まった ・運動場で遊ぶように声をかけたことで、活動量が増えた ・マラソン週間の実施で、苦手な児童も少しは参加できるので良いと思う ・かけ足タイムの実施により、体育の時間も活用して体力向上に取り組むことができた ・ストレッチ体操は取り組んでいない ・体力テストの平均値の低さが気になった <ul style="list-style-type: none"> ・長期休みの課題にも朝ごはんに関することが書かれているため、子どもたちも日々意識することができた ・給食カレンダーを紹介し、放送を聞き、給食に関心を持っている ・給食指導も興味関心を持って取り組んだ ・学期に1回食育をしていただいたので、児童の食への関心が高まった ・朝ごはんは、やはり家庭によるので難しい ・家庭との連携が必要なので、これ以上の数値は難しいのではないかと思う ・食育指導を通して、牛乳や給食を残さず食べようという意識が高まった ・長期休みに朝ごはんカレンダーを活用し、学校と家庭が連携して意識向上を図ることができた 目標もほぼ達成できた ・朝ごはんを食べている児童はほとんどだが、あと1%は保護者との連携が必要 	
<p>次年度への改善点</p>	

- ・計画的に体力向上の取り組みを行い、実施する
そのために、体育部での検討が必要と考える
- ・運動委員会の整備を取り入れてほしい
- ・体育物品の充実が必要
- ・走る以外の体力アップ週間
- ・遊具の増加（ジャンピングボード等）
- ・かけ足週間以外にも、スポーツテスト、水泳などで記録証を出したり、ミニ記録会を行ったりしては
 - ・1年通して行うのであれば、1，2学期も取り組みをしては
 - ・かけ足は、毎日ラインを引いて決まった休み時間に実施したほうがいいのでは
 - ・縄跳びとかけ足は3学期に両方は難しい
 - ・運動場も広くなるので、縄跳びタイムも行う
 - ・寒くなると、外に出ていく児童が少なくなるので、冬季の指導の工夫が必要
 - ・ストレッチ体操の掲示
 - ・体育の時間に簡単にできる運動など、長期的・継続的な取り組みが必要
 - ・体力や運動機能が上がる「遊び」を紹介する
- ・朝ごはんの数は毎回悩む
長期休みでも取り組める工夫もされており、継続して指導
- ・家庭との連携

○提案

- ・1年間通しての体育行事の検討
例：1学期 体力テストに向けての運動週間
2学期 なわとび週間
3学期 持久走タイム
- ・休み時間だけでは運動量の確保ができないため、体育授業の質向上
→体育部の先生に来ていただき、体づくり領域の校内研修
- ・目標値が体力テストで1学期早々に終わってしまい、向上が可視化できない
→もう一度体力テストを行う（運動会直後に、指標に書かれている種目）
- ・食育指導を指標に取り入れる

(様式2)

大阪市立茨田南小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none">・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く] ⇒平均 79.13% <p style="text-align: center;">【基本的な方向6、教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <ul style="list-style-type: none">・年次有給休暇を年間10日以上取得する教職員の割合を95%以上にする。 ⇒100% 達成 <p style="text-align: center;">【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none">・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を80%以上にする。 ⇒100% <p style="text-align: center;">【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none">・各学年全員公開の研究授業をICT機器を利用しながら行う。(計7回) ⇒達成 <p style="text-align: center;">【基本的な方向6、教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <ul style="list-style-type: none">・全教員1回以上、公開授業を行う。 ⇒全員実施 達成 <p style="text-align: center;">【基本的な方向6、教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <ul style="list-style-type: none">・デジタル教材を活用した朝学習等を週2回以上実施する。 ⇒達成 (ミライシード、ロイロノートを活用した) <p style="text-align: center;">【基本的な方向6、教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向6、教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <ul style="list-style-type: none">・朝の会、モジュールタイム等を活用してデジタル教材、協働学習支援ツールを活用した学習に取り組む。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・デジタル教材を活用した朝学習等を週1回以上実施する。	B
<p>取組内容② 【基本的な方向6、教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <ul style="list-style-type: none">・ICTを活用し、意欲を高める授業に取り組む。またオンライン授業を活用し、子どもたちの学びを保障する。(再掲) <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・全ての学級でタブレットを活用した学習に週1回以上取り組む。	B
<p>取組内容③ 【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none">・学校行事の取り組み時間を見直し、行事等の精選をはかる。また、ゆとりの日を週1回設定し実施する。	B

指標	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を80%以上にする。
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤される先生方が多いことはとても素晴らしいと思う。 ・ミライシードも使いやすい。 ・ナビマ等のデジタル教材も活用しながら、効果的に学習を進めることができた。 ▲学校行事部会で学校行事の見直しはできたが、各部での話し合いができていない。 ・朝の会、モジュールタイム等でタブレット学習を行った。 ・心の天気をまず最初に入力することも定着してきた。 ・単元学習の復習に活用し、児童自身もどこまで理解できているか、その場で知ることができ、すぐにトライすることで学習の定着に繋がった。 ・行事等の変更があり、バタバタした時期もあったが、行事を全て終えることができた。 ・タブレットで手書きをする際にタッチペンがないと書きづらいと感じる。 <p>隙間時間にタブレットで学習することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートや未来シード、デジタルドリルなどを活用し、意欲を高める授業に取り組んだ。 ・心の天気の入力があるので、1日に1回は必ずタブレットを開く場があった。 ・ICTは高い頻度で活用できている。 	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・主任の先生に<u>仕事が偏っている</u>と思った。 ・<u>企画前に部や領域で話し</u>、仕事の分担がもっと必要だと思う。 ・学校行事の見直しにおいて、各部（体育部・生活指導部など）で集まって意見を集約する機会も必要であったと思う。 ・<u>意見を出しやすい場を設定し、話し合いをする</u>ことが、今後働きやすくなることに繋がるのではないかと思う。 ・学校行事の<u>精選</u>を行い、<u>取り組みの役割分担、内容を全体で考える</u>ことが必要と思う。 ・児童の側に立ち必要不可欠と考えるものはしっかり残し、季節その時の状況に応じた確に判断し行えるよう、教員一同で取り組めるべきである。 ・朝の会には「このドリルを活用すると良い」などの<u>活用方法</u>があると活用しやすいと思う。 ・<u>全端末にタッチペンがあればいい</u>と思う。 ・16時半勤務の先生も多いので、<u>会議の時間をもう少し配慮</u>して進めていく。 ・業務の負担を教職員全員でならし、<u>一人ひとりの空き時間を確保</u>する。 	

2 学習者用端末未利用率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
授業日数	-	20日	21日	13日	4日	19日
月平均 (前年度)	- (29.7%)	74.9% (33.7%)	75.5% (35.4%)	79.4% (36.6%)	84.8% (42.2%)	85.6% (50.5%)
80%以上(各月)	-	25.0%	28.6%	61.5%	75.0%	89.5%
80%以上(累計)	-	25.0%	26.8%	35.2%	37.9%	50.6%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
授業日数	22日	18日	17日	-	-	-
月平均 (前年度)	78.9% (59.0%)	69.0% (59.9%)	84.9% (60.4%)	- (60.8%)	- (62.7%)	- (63.6%)
80%以上(各月)	72.7%	22.2%	88.2%	-	-	-
80%以上(累計)	55.6%	50.4%	55.2%	-	-	-